田原・八千種の狛犬

福崎町教育委員会社会教育課　渡　辺　昇

一、はじめに

獅子狛犬は仏教伝来とともに日本にもたらされたと伝えられている。獅子は本来ライオンとして霊獣化神格化し、東遷し中国・朝鮮半島で虎・龍などの神獣と合わさり、新たな変化をして仏教化する。日本には仏教に伴って入ってきたと思われるが、一部鏡・大刀などの威信財の中に神格化の象徴として先んじて入って来ているようである。狛犬はほぼ仏教とともに本尊などの守護として導入され、木造狛犬が作成され長きにわたる。木造以外にも石造・瓦製・金属製があるが、あくまで木造が主体で大半を占める。これらは当初は中国の影響を受けたが、どちらかと言えば和風で日本の中で変化していったと思われる。この時期の石造狛犬としては笏谷石で作られた越前狛犬が代表例で日本海側を中心に分布している。それが参道狛犬として社殿外部に位置するようになったのは一般的に中世末になってからである。ただ、地域的に外部に祀られていた石造狛犬は多数知られている。狛犬が社殿から屋外に出たのは、徳川家康を日光御廟に祀る際に石工による遊びごころによる玉垣の狛犬を見て広まったとも伝承されている。東照宮つながりで日光から江戸・駿府へ、参道狛犬としては江戸から大坂へ、そこから徐々に全国に広まったと言われてきた。また、同様に日光東照宮の狛犬を見た武士が奉納したと伝えられる岐阜県安八郡神戸町日吉神社の重要文化財に指定されている狛犬があるが、後続例がなく系譜が不明瞭である。通説では参道狛犬としては東京都目黒区目黒不動尊の承応三(一六三八)年の狛犬が最古と言われており、そこから伝播したと言われている。

二、狛犬の分類形態と石材産地

以下、狛犬の説明するにあたり簡単に記述方法などを記す。参道狛犬は東照宮からはじまり江戸で作られ、各地に広がっていく。その過程で特徴的な狛犬が各地で作られる。その中で広域流通するものと地域流通するものがある。広域流通するものは江戸狛・三河狛・浪花狛・尾道狛・出雲狛である。時期によっても変化するが、広く分布が知られている。名前が示すようにその地名の石工が主に現地の石材を使って作成したものである。江戸狛だけ少し離れた伊豆半島の石材を使用している。三河狛は石材が領家花崗岩であり、当初は三河の石材であったが、新しくなるとその技法を他地域で採取される同種の領家花崗岩（香川県など）で作られるようになり全国に版図を広げており、現代では大多数を占める。

石材は花崗岩・凝灰岩・砂岩・安山岩などが使われている。採取地名を石材名にしているものが多々あり、分別できるものは産地名で呼称している。科学的な鑑定・分析ではなく、あくまで筆者の肉眼観察であることをお断りしておく。花崗岩は山陰型・山陽型・領家型に分け、山陽型の中の六甲花崗岩(神戸市他)だけは確実なものだけ六甲としている。福崎で狛犬として使われている石材名では来待石(松江市)・和泉砂岩(阪南市他)・撫養石(鳴門市)が砂岩、高室石(加西市)・觜崎石(たつの市)・竜山石(高砂市)が凝灰岩である。神戸層群としたのは加東市から三田市にかけてに産する石材で、東播磨では池田石とも呼ばれる。砂岩質凝灰岩が多いが、産地によっては石粒を含む凝灰岩もある。

狛犬の部分は狛犬本体と足台・台座から成る。狛犬と一体となっている台を足台と呼んでいる。その下がすべて台座であるが、自然石や地元石材で築いた基礎部分と狛犬と同様の石材で作った直方体の上部に分かれるが主に上部部分を対象としている。

複数存在する狛犬は狛犬研究の基本図書であるねずてつや氏の分類に準じて便宜的に本殿から近い順にa・b・cと呼称している。台座などの面は狛犬に向かって左右・表裏面とし、狛犬本体は狛犬から見た右前脚などと記す。大きさなどの数値は表1を参照いただきたい。狛犬の髪のうち首周りにある先が尖っているものを剣状髪、その先端に丸くなっている部分を巻毛と呼ぶ。

三、田原・八千種の狛犬

狛犬の状況調査は原則的に国土地理院の二万五千分の一地図と兵庫県神社庁名簿から調査を行った。通りがかった神社も対象としているが、会社などの私的なお宮は対象としていない。狛犬は寺院にもあるが寺院は悉皆調査しておらず、田原・八千種すべての狛犬を調査していない可

能性もある。

以下町域の狛犬の概略を記す。数値などは表1に譲り、細かく記さない。神社名前の数字は表1の神社№である。狛犬設置社のみ記すので未設置社の番号はとんでいる。神社名は神社庁名簿によるが、一般に呼称されている名称を併記した神社もある。二〇二〇年末段階での一覧であり変化していることは十分に考えられる。

①恵美酒神社（井ノ口）

井ノ口集落北側の山塊丘陵部の市川を見下ろすところに占地する。四対の狛犬と二対の狛狐が存在する。狛犬c・dは先代になっており、狛犬cは社務所横に台座とともに置かれている。狛犬aの下部台座は高室石で明治三十八年の年号があり、その年代の出雲狛犬である。狛犬dは参道の手水鉢横に並んで狛犬だけが保存されている。来待石で作られた出雲の構え型であり、狛犬c同様に狛犬bの台座年号から昭和八年と思われる。狛犬a・bは領家花崗岩で作られた岡崎型狛犬である。台座上は領家花崗岩であるが、下の台座はともに先代台座を使用している。aの台座は上一段が領家花崗岩、二段目が来待石、三段目が高室石である。基本的には岡崎型であるが、地元石工の手によるものであろうか。特にaは顔が丸く表現が異なっている。

恵美酒神社　狛犬a

②鈴ノ森神社（辻川）

辻川山公園北側の丘陵上に鎮座する。二対の狛犬が存在し、aは玉垣内側の拝殿軒下に位置している。背崎石で文久三（一八六三）年に個人によって奉納されている。柳田國男が詠んだ「うぶすなの森のやまもも高麗犬は懐かしきかなもの言わねども」の狛犬であろう。巻毛大きく立体的で、髪も長めである。吽には低い小さな角が認められ尾などの意匠は浪花石工の影響を受けたものと思われる。bは昭和八（一九三三）年の砂岩質の石材で作られた子取り玉取りの狛犬である。子狛が立ち上がって右前脚にじゃれつく状態など丹波石工によるものと思われる。台座は領家花崗岩である。北海道に移った松岡家子孫による奉納である。

鈴ノ森神社　狛犬a

鈴ノ森神社　狛犬b

④北野天満神社（北野）

辻川山の東山麓の辻川山を挟んで鈴ノ森神社と対称の位置に存在しており、長い参道を有している。狛犬は撫養石で作られた阿波型で明治四十四（一九一一）年である。阿は口先に小さな玉を銜えており、前脚は反っている。髪は編んでおり、阿吽ともに上方を見ている。拝殿横に蛇紋岩製の牛が一体だけ置かれている。明治三十（一八九七）年で姫路市石工西川とある。

北野天満神社　狛犬

⑤熊野神社（田尻）

銀の馬車道沿いに位置する旧郷社である。二対の狛犬があり、aは阿波型と称する徳島県の撫養石で作られている。大きな垂耳で阿は口先に小さな玉を銜えている。口中に玉を配する通常の玉ではなく、狐のような玉で銜え方も口先で同様である。松岡家・三木家などの奉納である。bは高室石で頭が大きく巻毛が大きく横耳である。蝋燭尾で阿吽ともに下方を見ている。神農講の奉納である。

熊野神社　狛犬a

⑦大年神社（大門）

神積寺東側の山麓に位置しており、山麓西側には岩尾神社が存在する。二対の狛犬があり、aは高室石で作られている。団扇尾と蝋燭尾の中間形態である。顔は丸みがあり、身体はやや太めで、眼球表現が線でなされている。垂耳で愛嬌のある顔付きで、斜め四十五度で上向きである。特徴的なのは狛犬の足台に脚が付くことである。明治三十四年の個人寄進である。軒下にあることから残存状態は良好である。阿には性器が表現されている。bは砂岩質の石材で神戸層群かと思われる。台座は高室石である。大正十二（一九二三）年に氏子中によって奉納されている。前脚は斜めでやや細めで、尾は蝋燭尾である。ただ、来待石と比べて底面が大きい。阿吽台座側面に別の家紋が彫られている。顔に特徴があり、上唇中央が大きく上がっており、歯も即して弧状になっている。犬歯は大きく尖っている。台座には来待石のような脚を付けるが、装飾はない。阿には性器が表現されている。

大門大年神社　狛犬a

⑩大歳神社（亀坪）

日光寺の南麓谷部に位置している。高室石で作られた安政四（一八五七）年の近世狛犬である。顔の表情などは浪花狛犬の影響を強く受けている。団扇尾であるが、幅が狭く上が三峯になっている。四角い石取りで、巻毛は立体的である。犬歯が二対あり上の歯は帯状になり丁寧に一本ずつ彫っていない。拝殿軒下に位置していることから保存状態は良い。

亀坪大歳神社　狛犬

⑪田嶋神社（西野）

市川左岸堤防沿いの駒ケ岩の南に鎮座している。平成五年に建てられた領家花崗岩の狛犬である。子取り玉取りで蝋燭尾の変形である。阿は左前脚下に玉を置き、開口しているが口は四角に近く、歯も犬歯以外は四角に作っている。吽は右前脚下に子狛を配置している。子狛は正面を向く。巻毛は立体的で横耳に仕上げ、前脚は斜めで走り毛を有する。顔も縦長でなく丸く、子取り玉取りで領家花崗岩によって作られるが、岡崎型ではなく地元石工によるものと思われる。

⑫三十八神社（吉田）

市川左岸の平地の集落内に鎮座している。平成六年に作られた領家花崗岩の狛犬で、縦長の顔や炎尾など岡崎型の特徴を明確に示している。境内に六甲花崗岩の台座だけが残されており、先代狛犬は浪花狛犬だったかもしれない。

⑬八坂神社（八反田）

三十八神社同様に市川左岸の平地の集落内に鎮座している。山陽型花崗岩で作られた地方色の強い狛犬である。台座は高室石で大正十二（一九二三）年の奉納である。蝋燭尾で

八坂神社　狛犬

大きな垂耳であるが、胴は長く足裏は小さく低い。幾つかの要素が混じっている折衷様式で地元石工の手によるものであろうか。口先に玉を銜えており、巻毛は大きく下顎が発達している。

⑭與井神社（中島）

市川左岸で南田原の平地の集落内に位置している。二対の狛犬を確認している。aは領家花崗岩で作られ、炎尾や背中の髪の状況は岡崎型に通じるが、全体的には先代を模したのではないかと思われる。巻毛が大きい点や首が長い点は八坂神社狛犬に通じるものがあり、先代は同一石工の手によるものと推測される。ただ境内に先代として置かれているbは別物である。八坂神社狛犬とは別系統であるので、もう一対存在した可能性がある。bは口先に玉を銜えているものの顔は丸みがあり、首も通常である。

與井神社　狛犬

⑮藤田神社（長目）

市川左岸の氾濫原などの低地南側の独立丘陵上に位置している。平成十六（二〇〇四）年の領家花崗岩で作られた狛犬であるが岡崎型ではなく、先代を模したものと思われる。先代は来待石の出雲狛犬であろう。

⑯住吉神社（西光寺）

西光寺野と呼ばれる段丘上に鎮座している。東側を銀の馬車道が通り、南側も加西北条方面からの往還になっていた。平成二十（二〇〇八）年の岡崎型狛犬である。上の台座は狛犬と同時に作られた領家花崗岩であるが、その下は六甲花崗岩で先代の台座と思われる。昭和二十九年とあり、石材から先代は浪花狛だったかもしれない。

⑰日吉神社（西大貫）

高峰山から延びてくる大善寺がある支尾根に開析された谷部が認められ、その一つの谷奥部に存在する。天保六（一八三五）年の大枠では浪花的であるが、やや個性を有し高室石製と思われる。砂岩質なので神戸層群かもしれない。ずんぐりしており、尾は五峯を持つ。胸に深い圏線があり、横耳で背骨表現がある。吽には少し前後に長い円錐の短い角を持ち、顔はやや扁平である。

日吉神社　狛犬

⑱天満神社（東大貫）

日吉神社の東側に位置するが、谷部でなく丘陵部に鎮座している。日吉神社と同じく高室石で作られたずんぐりした狛犬である。台座も高室石で、天保十（一八三九）年氏子中の寄進である。全体の作りは浪花的であるが、頭部が平坦で顔はやや扁平である。前脚付け根の上下にある圏線が特徴的である。

前脚は斜めで足裏小さく口は端部が大きく上がったカエル口になっている。

天満神社　狛犬

⑲大年住吉神社（南大貫）

住吉山の北西山麓に位置している。明治二十四（一八九一）年の撫養石で作られている阿波型である。台座下半は高室石である。右阿は口先に小さな玉を銜えて斜め上方を見る。犬歯は二対あり口元は大きく反っている。歯は小さく四角で一本ずつ彫っている。鼻・垂耳は非常に大きく、前脚は外側に反るガリ股になり、指・爪は大きい。頭頂は尖りぎみで顔は扁平である。体部には筋肉が表現され、蝋燭尾である。左側も開け方は少ないが開口しており阿で良いと思われ、両方阿の珍しいタイプである。

大年住吉神社　狛犬

㉑余田大歳神社（余田）

住吉山と春日山に挟まれた平地の南東部に位置している。南側には北条へ向かう道（現県道四一〇号）が通っている。二組の狛犬がある。aは拝殿前にある福崎町で最も古い狛犬である。高室石製の天明四（一七八四）年奉納の狛犬である。先学に指摘されている通り、同年製作で同じ石材の姫路市菅原神社cと意匠は類似し共通点が多く同一石工によるものと思われる。ほぼ内側に向き合うように設置されているが、参道から見て左側に阿形が位置する配置を採っており、福崎町では唯一の配置例である。氏子中の奉納で明治四十年代に台座修理が行われている。阿形は開口しているが大きくは開かず、大きな舌を有している。顔は丸く垂耳である。前脚は直立し脚中央が細く上下に太くなっている。付け根側面の大きな巻毛が特徴的である。尾は素朴で付尾風で体部に接し、先は尖っている。吽形は大きな犬歯を持ち歯は四角で、頭頂に円錐形の角を有する。髪は房状で太く長い。阿吽が向かい合うが、阿は上向きで吽は左に少し曲げて下向きである。口部分が前に出ており、目・鼻ともに大きく立体的である。

bは末社前に配置されたものと思われるが、現状は木の根元に埋まっており阿形頭部のみ観察できる。高室石で口先に玉を銜えている。通常の高さ六〇cmぐらいの大きさと思われる。頭頂は丸く、目は大きい。歯は四角で垂耳である。

余田大歳神社　狛犬a

㉓地神社（若宮神社　庄）

庄の集落内にある神社である。額は若宮神社となっているが、神社庁名簿では地神社とあり、地元でも地神社と両方使われている。大正二年奉納の撫養石で作られた阿波型狛犬が存在する。個人名が記され、台座は領家花崗岩で後世の修復である。大きな垂耳で阿は口先に玉を銜える典型的な阿波型の特徴を示している。

㉔松永神社（庄）

庄集落西側で平田川西側の段丘面に位置しており、赤鳥居が際立っている。aは本殿前にあり狛狐である。大正十五年奉納の高室石製で石工名「石工中野仙□」が記されている。bは高さ二三cmと小形の高室石製の狛犬である。蝋燭尾から髪が体部に延びている。四角い石取りで後脚側面に菊花文が施されている。

地神社　狛犬

㉖熊野神社（鍛冶屋）

鍛冶屋集落の東側の春日山西麓に位置している。撫養石で作られた阿波型狛犬である。明治二十九年の当村氏子中の奉納である。口先が尖り上方を見ている。尾の先が後方へ反っている。前脚は左右に開き、筋肉表現がなされている。

四、おわりに

田原・八千種の狛犬調査結果は対象神社二七社で、狛犬二七対（余田大歳神社は阿のみ）、狛狐三対、牛一体を確認した。二七社のうち狛犬がいるのは一九社である。狛犬設置率は七〇、四％と兵庫県では一般的な数値であるが、全国的には高い数値である。複数あるのは六社あり、先代台座がある神社が一社ある。最も多いのが恵美酒神社で先代二対を加えて四対の狛犬と二対の狛狐が存在する。他の五社は二対だが、與井神社は先代で、松永神社は狛狐である。

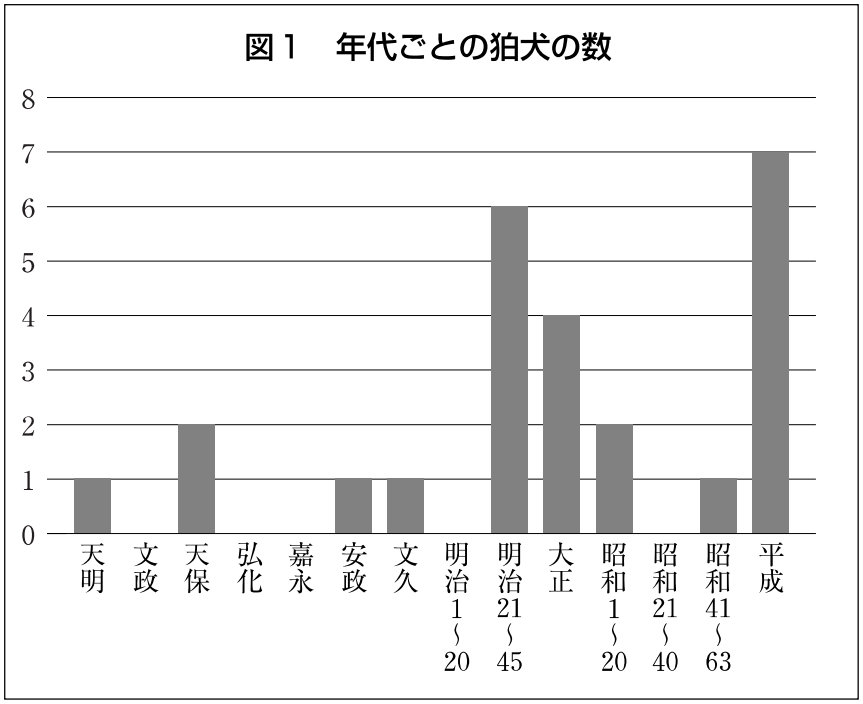
時代ごとの奉納年は図1の通りで、最古は余田大歳神社aの天明四（一七八四）年、最新は西光寺の住吉神社の平成二十（二〇〇八）年で、奉

熊野神社　狛犬

納年に二二四年の開きがある。時期分布は江戸時代後期が五対（天明から文久）、明治が六対、大正が四対、昭和前半が二対、昭和後半が一対、平成が七対である。平成年間が最も多いことになり、最近建て替えが行われたことを証明している。奉納の中心は明治後半から昭和前半にある。第二次世界大戦後のものが一対しかないのは少なく、この地域狛犬の特徴の一つと言えるかもしれない。年号が不明なのは余田大歳神社ｂと與井神社ｂの二つで明治期かと思われる。紀年銘が不明なのが二例というのは非常に少ない。

石材は、領家型花崗岩が七、山陽型花崗岩二、背崎石一、高室石八、神戸層群一、撫養石五、来待石二、大新屋石一である。領家型花崗岩は平成に限られている。最も多く使われている石材は高室石で、江戸時代から昭和まで幅広く使用されている。地域的に隣接していることからも高室石の文化圏に入っていると言えよう。背崎石と神戸層群も比較的近い地域からの搬入であるが、それ以外は離れた地域から運ばれている。来待石は販路が広く日本海を中心に九州から北海道まで広がる。特徴的な石材は撫養石で阿波型と呼ばれる口先に玉を銜えるタイプで徳島からの搬入品である。山陽型花崗岩も阿波型の影響を受けたもので姫路石工などが作成したと思われる。大新屋石は丹波石工の作成である。

石工名は松永神社ａの狛狐に石工中野仙□と北野天満神社の牛に姫路市石工西川と二例あるだけで、石工名の少なさは特徴の一つである。



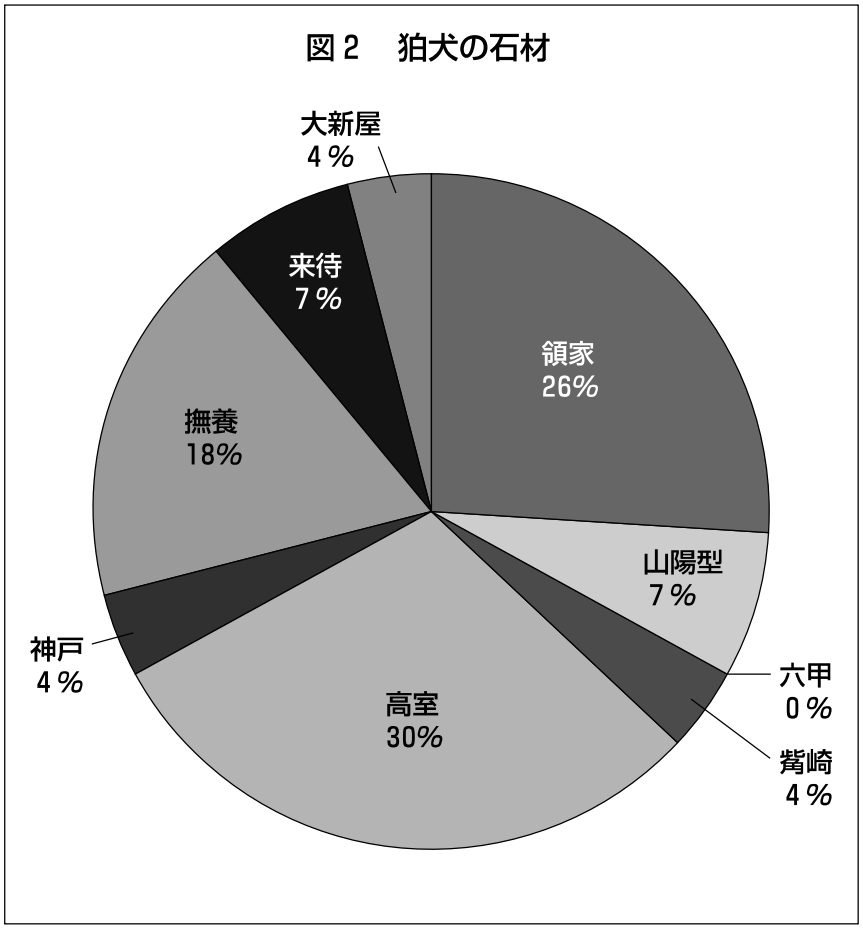


表１　田原・八千種の狛犬

狛犬 No.	神社名	年号		石材		寸法（幅・奥・高）		銘など	形態
		和暦	西暦	狛犬	台座	阿形	吽形		
	①恵美酒神社(井ノ口)								
1	a	平成元	1989	領家	領家	26･62･70	30･63･71	個人名	岡崎型
2	b	平成5	1993	領家	領家	24･53･58	28･55･56	個人名	岡崎型
3	c	明治39	1906	来待	来待	30･56･50	32･56･61	青年会、個人名	
4	d	昭和8	1933	来待	来待	30･56･50	32･56･61	青年会、個人名	構え型
	e			領家	高室	15･36･41	15･38･40	狐	
	f			高室	高室	14･33･39	14･32･39	狐　先代	
	②鈴ノ森神社（辻川）								
5	a	文久3	1863	髯崎	髯崎	32･54･66	32･56･69	個人名	
6	b	昭和8	1933	大新屋	大新屋	40･78･64	36･66･73	個人名、家紋	
	③高藤稲荷神社（辻川）	—	—	—	—	—	—		
7	④北野天満神社（北野）	明治44	1911	撫養	高室	24･46･55	28･46･58	個人名 氏子中	阿波型
	⑤熊野神社（田尻）								
8	a	明治35	1902	撫養	高室	34･64･86	35･66･86	個人名	阿波型
9	b	昭和4□		高室	高室	23･48･50	23･45･52	神農講 個人名	
	⑥岩尾神社（加治谷）	—	—	—	—	—	—		
	⑦大年神社（大門）								
10	a	明治34	1901	高室	高室	24･58･55	25･45･54	個人名	
11	b	大正12	1923	神戸	高室	30･63･68	32･60･67	氏子中　家紋	
	⑧大歳神社（加治谷）	—	—	—	—	—	—		
	⑨愛宕神社（加治谷）	—	—	—	—	—	—		
12	⑩大歳神社（亀坪）	安政4	1857	高室	高室	26･48･56	26･46･55		
13	⑪田嶋神社（西野）	平成5	1993	領家	領家	25･54･56	26･52･68		岡崎型亜
	⑫三十八社（吉田）								
14	a	平成6	1994	領家	領家	27･66･67	28･66･66	個人名　台座平成12	岡崎型
	b	大正6		—	六甲				
15	⑬八坂神社（八反田）	大正12	1923	山陽型	高室	28･60･66	28･60･64	氏子中　家紋	阿波型亜
	⑭與井神社（中島）								
16	a	平成8	1996	領家	領家	28･62･73	30･63･73	ウシオ精工株式会社	
17	b			山陽型	—	26･58･80	28･58･80		阿波型亜
18	⑮藤田神社（長目）	平成16	2004	領家	領家	34･64･74	34･64･73	氏子中	
19	⑯住吉神社（西光寺）	平成20	2008	領家	領家	32･62･69	36･65･69	台座下六甲で昭和29	岡崎型
20	⑰日吉神社（西大貫）	天保6	1835	神戸	山陽型	28･52･58	27･50･63		
21	⑱天満神社（東大貫）	天保10	1839	高室	高室	30･58･66	30･52･65	氏子中	
22	⑲大年・住吉神社（南大貫）	明治24	1891	撫養	高室	30･55･69	30･55･69	個人名	阿波型
	⑳愛宕神社（南大貫）	—	—	—	—	—	—		
	㉑大歳神社（余田）								
23	a	天明4	1784	高室	高室	30･58･62	31･58･68	氏子中　個人名	阿吽一一型
24	b			高室	—	28･(30･26)	—	阿のみ埋まっている	
	㉒大歳神社（余田新田）	—	—	—	—	—	—		
25	㉓地神社（庄）	大正2	1913	撫養	領家	22･45･58	23･42･55	個人名	阿波型
	㉔松永神社（庄）								
	a	大正15		高室	高室	20･46･57	20･47･58	狐	
26	b			高室	高室	10･22･23	10･21･23	小型	
	㉕大森神社（庄）	—	—	—	—	—	—		
27	㉖熊野神社（鍛冶屋）	明治29	1896	撫養	高室	26･50･69	28･48･69	氏子中	阿波型
	㉗若宮神社（小倉）	—	—	—	—	—	—	木造狛犬あり	